県外派遣報告書

派遣員名	増田義裕	勤務校	桶川市立加納中学校	役　職	技術副委員長
大 会 名	平成26年度全国中学校バスケットボール大会				
期　間	平成26年8月22日～25日	会　場	高松市総合体育館		

視察内容

期　日	対　戦		場　所
8月23日	予選リーグ	実践学園(東京)　90-42　内宮(愛媛)	高松市総合体育館
	予選リーグ	布水(石川)　66-58　梅丘(東京)	高松市総合体育館
	予選リーグ	島根(島根)　48-72　鳥屋野(新潟)	高松市総合体育館
	予選リーグ	斜里(北海道)　45-80　実践学園(東京)	高松市総合体育館
	予選リーグ	長瀬(大阪)　48-62　布水(石川)	高松市総合体育館
8月24日	決勝トーナメント	浜松学院(静岡)　79-61　島根(島根)	高松市総合体育館
	決勝トーナメント	玉島北(岡山)　38-48　実践学園(東京)	高松市総合体育館
	決勝トーナメント	鳥屋野(新潟)　84-43　西福岡(福岡)	高松市総合体育館
	決勝トーナメント	枚方第四(大阪)　63-48　実践学園(東京)	高松市総合体育館
	決勝トーナメント	布水(石川)　65-45　梅丘(東京)	高松市総合体育館
8月25日	準決勝	浜松学院(静岡)　45-53　実践学園(東京)	高松市総合体育館
	決　勝	実践学園(東京)　50-74　布水(石川)	高松市総合体育館

視察報告

今大会、1on1を持ち味としたチームと、G・F・Cのバランスのとれた組織的なプレースタイルのチームの対戦を中心に観戦してお互いにどのような戦術を繰り広げるのかに注目した。

【Dfeについて】

オールコートのマンツーマンDefが多いのだが、そのシステムに大きな違いが見られた。ディレクションの方向がミドルライン側に追い込むDefがあったり、エンドライン側に追い込むDefと様々だったのだが、2線のディナイの仕方がドライブ中心のチームに対してはオープンし、ドライブインに対しての反応を早くするようなシステムが見られた。また、マンツーマン以外にも大型チームは2－3ゾーンでリバウンドからブレイクに繋げるようなDefがあった。

高さのあるチームへの対応についてだが身長差のミスマッチにはオールフロントで背中プレーさせない。カバーは逆サイドのカバーポジションのプレーヤーが死角からの仕掛けも見られた。

【Ofeについて】

高さを生かしたチームでもハイ＆ローのプレーを中心に得点をするチームや外角のショットから、リバウンドショットで得点を重ねるチームと様々であった。また、今大会を振り返ると高さのある選手がブレイク時にトレーラーとなり走りこんでくるケースが多く見受けられ、外角のショットがあってもそのまま飛び込みリバウンドが目立った。

一方、高さのないチームもドライブインから外角ショットへの合わせ、Defのブラインドへの飛び込みの合わせなど、機動力を生かしたプレーがよく見られた。

どのチームにも共通して、身長の高低関係なく敏捷性やドリブルワーク、パスワークなどのファンダメンタルを身につけている選手が全国大会の舞台に立っていることが伺える。